ロスチャイルドはこの改革派ユダヤ教の拡大に資金を提供した。ロスチャイルドの支持によって改革派ユダヤ教にばけたサバタイ派＝フランキストは、ヨーロッパから米国に浸透し、そして 19 世紀末にはその地盤を強化し、20 世紀には米国ユダヤ人社会を完全に制圧するに至るのである。

我々は 1844 年、米国にユダヤ人のみを構成員とするフリーメーソン結社として「ブナイ・ブリス（契約の息子たち）」が設立された、そして 20 世紀の初頭ブナイ・ブリスは、その下部組織として ADL（アンチ・ディファメーション・リーグ）を設立した、と聞かされる。ところが実は、この「ブナイ・ブリス」を作ったユダヤ人（ユダヤ教徒）とは、サバタイ派＝フランキスト＝改革派ユダヤ教だったのだ（アンテルマン）。

（『ロスチャイルドの密謀』P342）

ブナイ・ブリスを作ったのは「サバタイ派＝フランキスト＝改革派ユダヤ教だった。」これはその通りでしょう。ロスチャイルドの資金提供がそこにはありました。
ただし、「背徳のメシア」サバタイ・ツヴィ、彼そのものが作られたものだったのです。「黒い貴族」とその秘密部隊の諜報員、具体的にはイギリス東インド会社の諜報員の動きで作られたと推測できます。